

見よ、世の罪を取り除く神の小羊

ヨハネによる福音書 1 : 29 - 37



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年1月15日

顕現後第2主日

聖光教会にて

イエスさまに洗礼を授けたあのヨハネ、洗礼者ヨハネが声を上げて言いました。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」ヨハネ 1:29

今日わたしたちは、洗礼者ヨハネに導かれて、あらためてイエスさまを見つめたいと願います。

今日の福音書の冒頭を読みましょう。

「その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。』」

ヨハネ 1:29

「見て言った」とあります。想像して言ったのではありません。ヨハネは自分のほうに来られるイエスをしっかり見て、そう言ったのです。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

これはヨハネの驚きの声です。はっきりイエスを知った叫びです。

先ほどの聖書に言われていたとおり、ヨハネは、神の霊が降くだってイエスにとどまるのを見ました。イエスは神の霊を受けて、愛と命に満ちておられる神の子だと知りました。。しかし今日、自分に近づいて来られるイエスを見て、ヨハネはもっと深くはっきりと、イエスを知り、確信したのです。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

わたしたちもイエスをそのような方として知りたいのですが、それには少し説明が必要かもしれません。「小羊」とはどのような意味があるのでしょうか。

遠い昔のことがずっと毎年記憶され、記念されてきたことがあります。それはイスラエルの先祖の出エジプトの出来事です。エジプトを脱出する直前、イスラエルの家では小羊を屠^{ほふ}ってその血を家の入り口の柱と鴨居に塗り、そしてその夜に肉を火で焼いて食べた。主の使いがエジプト人を撃つとき、小羊の血が柱と鴨居に塗られた家は手を付けずに通り過ぎた。それを記念するのが過越の祭です。小羊の血によって守られた昔の出来事を記念するのです（出エジプト記 12:1-35）。

ヨハネは、イエスのうちに、その過越の小羊を見ました。この方が血を流して死んで、わたしたちを守ってください。しかもイエスの命と死と流される血は、世の罪を取り除く。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

さらにその翌日、洗礼者ヨハネは二人の弟子と一緒にいました。そして歩いておられるイエスを見ました。前日もヨハネはイエスを「見た」(1:29) のですが、今日のその「見る」は原典では別の単語が用いられています。

「そして、歩いておられるイエスを見つめて、『見よ、神の小羊だ』と言った」ヨハネ 1:36

単に「見て」ではなくて「見つめて」と訳されています。ヨハネは前の日よりもさらに深くイエスを見て、一層深くイエスを知ったのです。認識と確信が強くなりました。

「見よ、神の小羊だ。」

その言葉に動かされたヨハネの二人の弟子は、ヨハネから離れてイエスに従いました。わたしたちはどうでしょうか。「見よ、神の小羊だ」と言われています。わたしたちもイエスを見たい。見つめたい。神の小羊イエスをしっかりと見つめて、イエスより深く知り、イエスに従いたいのです。

ところで「小羊」と聞いて、一つ思い浮かぶ聖書の箇所があります。旧約聖書・イザヤ書 40 章です。

「主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め、小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。」イザヤ 40:11

ここから幼子イエスの姿を思い浮かべてみます。譬えですが、羊飼いである主なる神が幼子イエス、小羊イエスをふところに抱かれる。神は愛する小羊イエスと母マリアを、守り導いて行かれます。

けれども幼子イエスは成長し、やがてこの世の苦しみを知る

ことになります。ここに見えてくる姿は、世の罪を除くために苦難を負われる神の小羊イエスです。この神さまの愛いとし子イエス、この方が、世の罪を取り除くために苦難を受けて死なれる、とヨハネは見てとったのでした。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

ヨハネ福音書は、後の神の子イエスの受難についてこのように伝えていきます。

「兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。」 19:34

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」と言った洗礼者ヨハネの心の目には、将来屠ほふられて血を流される神の小羊イエスの姿が、すでに見えていたのでしょう。

血と聞くとわたしたちはぎくっとして、遠ざかりたい気がするかもしれません。けれどもここにあるのは、人を救おうとされるイエスの限りない愛なのです。

イエスの流された血は、空しく流れ出たものではありません。この血はイエスの愛の滴しずく、愛の滴したたりであって、人の破れを癒やし、世の罪を清め除くのです。

ヨハネはその手紙の中で次のように言っています。

「神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。」ヨハネの手紙 — 1:7

ここは翻訳がよくありません。ギリシア語原文では、「御子イエスの血」が主語です。

「御子イエスの血が、わたしたちをあらゆる罪から清める。」

これが大切です。イエスの尊い血が、もっとも厳しい危険から、恐ろしい誘惑からわたしたちを守り、解決しがたい罪の過ちからわたしたちを清めて救うのです。

「世の罪を除く神の小羊」

わたしたちはこの礼拝で、さっき「大栄光の歌」の中でそう唱えました。この後もう一度、同じ言葉を唱えます。聖餐を受ける直前です。

「世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください」

3回繰り返します。神の子の苦難、神の小羊の流された血がわたしたちを救う。わたしたちを愛しとおされるイエスの愛が、聖別されたパンと杯をとおしてわたしたちに与えられ、心と体に浸透する。深い祈りと感謝をもってこれを歌いあるいは唱えたいと願います。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

この方がわたしたちに近づいてこられます。この方がわたしたちを愛のまなざしでご覧になります。この方がわたしたちの罪と重荷を引き受けてくださいます。

祈ります。

主イエスさま、洗礼者ヨハネがあなたをはっきりと見て知ったように、わたしたちもあなたをはっきりと見て知ることができますように。あなたの味わわれた苦難の十字架が、あなたの尊い血が、世とわたしたちの罪を除いてくださいます。神の小羊であるあなたに頼り、あなたを信じて従い生かしてください。
アーメン